

1月定例活動

ツツジの園づくり



前日は寒い日で、当日の予報も寒くなるとのこと。参加者が低調になることをおそれていたのですが、見学希望者を含め17名の盛況となりました。梅林を通してツツジの小径へ向かうと、一部の梅がほころび始めていて近づく春に心が軽くなりました。

小径の周辺はここ数年の手入れでず

いぶん元気になっていたもので、今回は奥まったところにも手を入れることにしました。光不足で立ち枯れになっている木々を取り除き、奔放に伸びたヒサカキを伐採して、水止め兼いのちの谷へのバリアとして斜面の中腹に横に長く積み重ねました。

人手が多いというのはすごいことで、午前中の作業で森はすっかり明るくなり、思った以上に多くのツツジが姿を見せました。少し大げさに言うと、今年はこの辺り全体がツツジの花で紅く染まることでしょう。



▲ヒサカキや立ち枯れの木々を取り除き明るさを取り戻した

午後は、シイタケ駒菌打ちをデッキでしました。コナラのホダ木20本に菌を打ち付けて炭焼き釜の後ろに仮伏せしました。2年後の秋頃から収穫できるでしょう。



▲午後に行ったシイタケの駒菌打ちの様子

余談ながら、メンバーの一人が手作りの野沢菜おやきを、他の方が友人の猟師から頂いたという鹿肉を差し入れて下さり、珍味に舌鼓を打ちました。“食を共有することは心をつなげるものである”などと森の哲学者気取りになった一日でした。(伊藤 晶)

シリーズ『森の住人たち』①9

～アサギマダラ～ その3

ナゴヤから1800kmの旅

— 沖縄県八重山諸島の小浜島 —



1800kmを旅したKOK2のアサギマダラ

11月13日の夜、パソコンを開くと、メーリングリストの件名に「再捕獲情報：沖縄県小浜島 KOK 2 ナゴヤ 10/11」とあるのを見つけた。急いでメールを開く。

本文には、11月13日、沖縄県八重山郡竹富町小浜島大岳で、KOK2とマークされたチョウを再捕獲したとの

タテハチョウ科マダラチョウ亜科

開長 10cm

分布 日本全土

食草 キジョラン、カモメヅル、イケマなど

報告だった。10月11日のマーキング記録を探す。この日は快晴、相生山緑地のいつものマーキング場所に到着すると、すでにアサギマダラが花に訪れていてすぐさま捕獲したことを思い出す。アサギマダラの左後翅に小さな欠損があったというメモがある。その翅で1800kmを旅したのだと思うと、一層いとおしく、胸が熱くなる。

小浜島といえば、何年か前にNHKドラマ「ちゅらさん」の舞台となった島である。33日間の旅のその距離は約1800km。さまざまな花の蜜をエネルギーに、丘を越え、海を越え南下したのだろう。この記録は、ナゴヤからの飛距離としては過去最長となった。(その約10日後、さらに数km先に飛翔したアサギマダラが確認される)

メールに感謝の言葉を添え、ナゴ

ヤでマークした時の状況を連絡した。平成19年、その年に私がマークしたチョウは24頭。アサギマダラの季節に頻りに捕獲に出かけてもこの頭数である。理由は簡単かつ明瞭。観察会ではもちろん参加者が主役、たとえ私が捕獲したチョウであっても参加者にマークをしてもらおう。またフィールドで出会った人で、アサギマダラやマーキング調査に関心を寄せた人にも、積極的にマーキング体験を勧める。というわけで、自身のマークは必然的に少なくなる。

マークしたチョウが、1800kmを旅したことをひとしきり喜んだあと、私がふと思ったことは、「沖縄まで飛んだチョウが、参加者のマークしたものだったらなあ〜」ということである。どうやら私は、企画者向きの性格らしい。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)